ドパストン®カプセル
ドパストン®散
を服用される
患者さんとご家族へ

どのようなお薬ですか?

パーキンソン病、パーキンソン症候群の治療に使われるお薬です

脳内に取り込まれて、ドパミンに変わり、不足しているドパミンを補います。パーキンソン病やパーキンソン症候群に伴う症状（無動・寡動、筋硬直、振戦など）を和らげ、日常生活の動作を改善します。

副作用について

このお薬を服用されている患者さんでは、以下の副作用がおこることがあります。このような症状があらわれた場合には、ご自分の判断でお薬を飲むのをやめず、医師や薬剤師にご相談ください。

主な副作用

- 吐き気・嘔吐、食欲不振
- 便秘
- 口が渇く
- 不随意運動
- 起立性低血圧（たちくらみ）、めまい
- 不眠
- 頭痛
- 動悸
- 唾液、尿や汗が黒くなる

主な副作用のうち、代表的なもの

吐き気・嘔吐、食欲不振

このお薬を服用していると、吐き気や嘔吐がでたり、食欲が低下したりする可能性があります。症状が重い場合には、医師や薬剤師にご相談ください。

不随意運動

舌やあごが絶え間なく勝手に動くなど、本人の意思とは関係なく身体が動いてしまうことがあります。

起立性低血圧（たちくらみ）

急に立ち上がると、めまいやふらつきがおこったり、意識がうすれることがあります。急に立ち上がらないなど、日常の動作にご注意ください。

唾液、尿や汗が黒くなる

唾液、尿、汗が黒くなることがあります。これはお薬がメラニンに変わったことによるものですので特に心配はいりません。

特に注意していただきたい副作用

次の症状があらわれた場合は、ただちに医師や薬剤師にご相談ください。

突発性の眠気、注意力の低下

前触れがなく突然眠ってしまったり、過度の眠気がおこったりすることがあります。また、他にも、ものが見えにくくなったり、注意力・集中力・反射運動の低下がおきたりする可能性がありますので、このお薬を服用中は、自動車の運転などの危険を伴う機械の操作や高所での作業などは避けてください。

悪性症候群

服用を中断してしまったり、急に減らしたりすると、悪性症候群（他に原因がないのに高熱がでる、意識がうすれる、筋肉がこわばるなどの症状）がおこる可能性があります。これらの症状があらわれた場合は、ただちに医師や薬剤師にご相談ください。

幻覚・妄想

現実には存在しない物が見えたり（幻覚）、間違った思い込み（妄想）があらわれることがあります。

衝動制御障害、ドパミン調節障害症候群

強い欲求や衝動が抑えられないことがあります。人によって症状は様々ですが、病的賭博（ギャンブル）、病的性欲亢進、極端な買いあさり、むちゃ食いなどの行動があげられます。

また、このお薬を治療に必要な量を超えて欲しくなる症状があらわれることがあります。

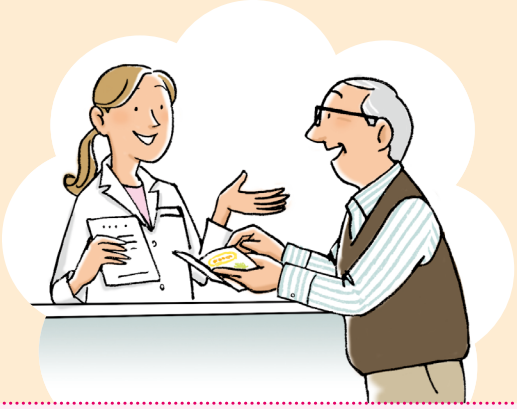
胃潰瘍・十二指腸潰瘍の悪化

胃潰瘍・十二指腸潰瘍の患者さんでは、症状が悪化することがあります。

溶血性貧血、血小板減少

溶血性貧血（だるい、動悸・息切れ）、血小板減少（あおあざができやすい、出血しやすい）がおこることがあります。

このほかにも気になる症状が出た場合は、ご自分の判断で服用をやめず、医師または薬剤師にご相談ください。



より詳しい情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。

製造販売元
大原薬品工業株式会社

2020年6月作成, MA
DP-PTA-②-2PV